

☆発表は、みんなに聞こえるように大きな声で元気よく行う。

☆人の話は最後まで聞く。

☆失敗があるからこそ、成長があることを自覚させる。

☆自分に与えられた仕事には責任を持って取り組む。

☆常に人のよさを見つけ、認める努力を忘れない。

(2) 乗ってくる子を生かす

約1ヵ月、教師からの「楽しいことの仕掛け」を続けると、必ず一人か二人はそれに乗ってくる子どもが現われるはずです。教師は、その子どもたちを見逃さず使うのです。

「君たちも何かやって（企画して）みないかい？」

「今度、先生が〇〇をやるので、ちょっと手伝ってくれる？」

もし一人もそういう子どもが出てこなかったら、個人的に数人の子どもたちに声をかけてみましょう。必ず見つかるはずです。とにかく、子どもたちに「楽しいことをやりたいなあ」と思わせればよいのです。

そのことと同時に、学級会というものの意味をしっかりと理解させておくことが大切です。そのために、初めて受け持った学級であれば、前学年でどんな学級会をしてきたかを尋ねておきましょう。

2 改訂学習指導要領情報～特別活動の課題

さる1月17日に中央教育審議会の答申が出されました。

以前から、「今回の改訂では、特別活動に追い風が吹く」ということを聞いていたのですが、実際、どのような形で答申に表されたのかをまとめてみたいと思います。

最初に、答申の中で示されている「特別活動の課題」はどうなっているのでしょうか。

- ◇特別活動の充実は学校生活の満足度や楽しさと深くかかわっているが、他方、それらが子どもたちの資質や能力の育成に十分つながっていない状況も指摘されている。
- ◇学校段階の接続の問題としては、小1プロブレム、中1ギャップなど集団への適応にかかわる問題が指摘されている。情報化、都市化、少子高齢化などの社会状況の変化を背景に、生活体験の不足や人間関係の希薄化、集団のために働く意欲や生活上の諸問題を話し合っ解決する力の不足、規範意識の低下などが顕著になっており、のぞましい人間関係を築けないことや、望ましい集団活動を通じた社会性の育成が不十分な状況も見られる。
- ◇特別活動について、全体の目標は示しているが、各内容ごとの目標は示していない。このため、活動を通して何を育てるかが明確でないことや、総合的な学習の

時間などとの教育活動の重なりも指摘されている。

◇特別活動の中でも、その基盤的な役割を担う学級活動やホームルーム活動の内容については、小学校では6年間を通じた活動内容をまとめて示しているため、発達や学年の課題に対応した適切な活動が行われにくいとの指摘がある。また、中学校及び高等学校では、内容が網羅的になっているため、重点を置きたい内容の指導に力が注ぎにくいとの指摘がある。

これらの課題を受けて、学習指導要領ではどのように改訂されるのでしょうか。文部科学省教科調査官の杉田先生は、次のように書かれています。

◆学級・学校の「生活づくり」を

特別活動は、よりよい人間関係を築き、社会に参画する態度や自治的能力の育成、道徳的実践の指導の充実の観点から目標や内容を見直す。小学校の学級活動は低・中・高学年ごとに重点化を図り、内容を示すこととした。学校行事では、集団宿泊体験や文化的な体験などを重視する。

◆改善の基本方針

特別活動については、特別活動と道徳、総合的な学習の時間の役割を明確にし、望ましい集団活動や体験的な活動を通して豊かな学校生活を築くとともに、公共の精神を養い、社会性の育成を図るという特別活動の特質を踏まえ、特によりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力の育成を重視する。

道徳的実践の指導の充実を図る観点から、目標や内容を見直し、新たに各内容に係る活動を通して育てたい態度や能力も目標として示す。

子どもの自主的・自発的な活動を一層重視するとともに、子どもの実態に適切に対応するため、発達や学年の段階や課題に即した内容を示すなどして、重点的な指導ができるようにする。

自分に自信がもてず、人間関係に不安を感じるなどの状況があることから、体験活動や生活を改善する話し合い活動、多様な異年齢の集団による活動を一層重視する。

◆改善の具体的事項

(小学校)

ア、学級活動は(1)学級や学校の生活づくり(2)日常の生活や学習への適応及び健康安全、の内容で構成。低・中・高学年ごとに、重点化を図って内容を示す。

(1)「学級や学校の生活づくり」では、合意形成をする話し合い活動や自分たちでルールをつくって守る活動などを一層重視。係活動とともに、日常の清掃などの当番活動も計画的に指導する。

(2)「日常の生活や学習への適応及び健康安全」では、集団適応など幼児教育との接続、自己の生き方など中学校との接続に配慮し指導を重点化。

イ、児童会活動は、異年齢の子どもからなる集団による自治的能力の育成を重視する観点から、具体的内容を示す。

ウ、クラブ活動は、楽しい学校生活やよりよい人間関係を築く力の育成の充実を図る観点から具体的な内容を示す。

エ、学校行事は、自然の中での集団宿泊体験や異年齢交流なども含め多様な人々との交流体験、文化的な体験などを重視する観点から、内容を改善する。

(中学校)

ア、学級活動は、(1)学級や学校の生活づくり(2)適応と成長及び健康安全(3)学業と進路、の内容で構成。よりよい人間関係を築くための社会的スキルを身に付けるための活動を効果的に取り入れる。

イ、生徒会活動は、健全な人間関係の広がり、自治的能力の育成を重視する観点から、具体的内容を示す。

ウ、学校行事は、職場体験、奉仕活動、文化的な体験などの体験活動を重視する観点から、内容の改善を図る。

◆改善の視点

学校は楽しいところでなくてはならないが、今は、いじめや暴力、学級が機能しないなど、心も学力も育ちにくい状況がある。特別活動での子どもたちによる楽しく豊かな学校や学級の生活づくりは、社会性ととともに心や学力を育てるための土壌(望ましい集団)をつくる。子どもが豊かに育つ「生活をつくる」ことをキーワードに、特別活動の在り方を見直していただきたい。

(日本教育新聞 2月11日発行分に掲載されたもの)

3 メルマガ編集部からのお知らせ

◆次号の予告◆◇◆

第54号は2月下旬ごろ発行予定です。

次号は、集会活動の原案の書かせ方についてまとめてみます。

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は216名です。どんどん読者が増えてきています。嬉しい限りです。これまで以上に内容を充実させていく必要を感じています。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っています。お知り合いの方にこのメルマガを紹介してください。登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆内容の充実について◆◇◆

このメールマガジンでは、読者のみなさんのニーズに応える紙面作りに取り組んでいこうと思っています。こんな内容について書いて欲しい。こういう情報が欲しい、ということをお知らせください。

先日、学習指導要領案が出されました。これから少しずつ新しい特別活動がどうなる

のかについても、明らかになっていくのではないかと思います。そのあたりについても可能な限り書いていこうと思います。

◆実践投稿のお願い◆◇◆

読者のみなさん、みなさんが取り組まれている情報を送ってください。特活の実践を広げ、共有していきましょう。

3月は、学級づくりのまとめの時期でもあります。担任としてどのような作戦を練って、それぞれの学年でどのように学年末を締めくくるのか。目の前の子どもたちをどのようにして次の学年に送り出すのか、その実践について情報交換できたらと思います。先生方が取り組んでおられる実践を紹介してください。

本メールマガジンでは、今後、以下のようなことについての情報を交流し合いたいと考えています。どんな小さな事でもけっこうです。情報をお待ちしています。

<実践投稿のヒント>

- 4月頃 出会いの演出・新学期の学級経営
- 5月頃 連休明けの学級経営のポイント
- 6月頃 室内でできる簡単イベント
- 7月頃 夏休み前の学級経営・1学期のまとめ
- 8月頃 子どもとのつながりを考える
- 9月頃 2学期スタートの学級経営・運動会と学級をつなぐ取組み
- 10月頃 意欲的に行事に取り組む手だて
- 11月頃 学級目標の見直し・音楽会と学級づくり
- 12月頃 お楽しみ会の在り方・年賀状と学級づくり
- 1月頃 新年の誓い・新たな気持ちを学級づくりに生かす
- 2月頃 文集づくり・6年生を送る会のシナリオ
- 3月頃 お別れ式の持ち方・先生の通知票

以下のアドレスまでよろしくお願ひします。

sugi-net@c-able.ne.jp

＝＝＝
山口学級活動ネットワーク メールマガジン
☆ご感想・ご意見はsugi-net@c-able.ne.jpまで
☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部
梶田崇晴（山口市立平川小） 津村元文（防府市立西浦小）
能勢雅子（山陽小野田市立高千帆小） 吉田哲朗（山口大学附属山口小）
＝＝＝